

令和2年度 第4回日本脊椎脊髄病学会 安全医療推進委員会 議事録

2020.10.28(水) 18:00-19:10

場所：オンライン会議(会議主催地：名古屋大学医学部附属病院 会議室)

出席委員： 高相(担当理事) 今釜(委員長) 相澤 奥田 金村
小西 須田 中西(書記) 村上 宮腰 大和 湯川(敬称略)
欠席委員： 大谷 西田(敬称略)
その他： 酒井紀典(徳島大学)(敬称略)

議事

1. 報告事項

(ア) 日本脊椎脊髄病学会理事会報告：高相(担当理事)

前回検討した抗凝固剤内服と硬膜外血腫リスクについての報告。

抗凝固剤使用に関するガイドラインの注意喚起がホームページに掲載された。

(イ) JSSR 統合型 DB 進捗状況：金村先生

金村徳相 DB 委員会委員長より DB 進捗状況について説明。

JOANR 他学会連携(2階部分)のシステム構築や法的体制が整い、JSSR 統合型 DB を JOANR 2階部分として構築することが決定。プロトタイプを本委員会合併症調査として開始。可能であれば、プロトタイプの登録を2021年3月末までに行うことを目指す。

1. 調査票作成(DB委員会WG)：現在、今釜委員長がWGメンバーとなっているが、調査票作成の作業時間がかかりかかることが予想、本委員会からもう一人加わって頂けることをDB委員会WGとして要望。

高相理事から名古屋大学の先生に当委員会に入ってもらい、調査票作成の作業を分担していただくことが提案され、承認された。

2. 調査対象と開始時期：プロトタイプの登録対象施設を当委員会で再度検討(全会員、専門医認定施設、評議員施設、委員会委員施設など)

複数の委員から、前回調査の回収率が低く、次回調査の回収率を上げるために当委員会で対象は全会員ではなく専門医認定施設に限定すること、その周知期間を6ヶ月間を行うことなどが決定済み。2021年3月末までに登録することは、認定施設に限定したとしても、事前周知する時間が短く、回収率低下が懸念され、この期間での合併症調査実施は困難との意見が挙がった。来月11月のJSSR-DB委員会検討審議することになった。

3. 調査期間：当委員会で、preliminaryな調査であり回収率の高い合併症調査実施する観点から、登録期間1ヶ月とし、手術後1ヶ月後までの合併症を登録す

ることが決定済みで、プロトタイプでもこの期間で行うことを再確認。

2. 検討・確認事項

(ア) 抗凝固剤内服と硬膜外血腫リスクについて：酒井先生

酒井紀典先生(徳島大学)よりアンケートの提示と進捗状況の説明をいただいた。

1. JSSR 広報進捗：ホームページで注意喚起を行った。
2. JOA 安全医療推進委員会進捗：JOA 安全医療推進委員会がこの1か月で開催されておらず、今度11/16に開催されるのでそこで提案されるとのこと。
3. アンケート調査内容・実施方法の検討：

アンケート内容についてはいろいろな意見が出た。対象を心疾患に限定してはどうか(脳梗塞は必要ないのでは)、複数例経験した場合の対応、アンケートの信頼性を高めるには施設名や登録者名の記載をしてはどうか、項目をもう少し細かく設定してはどうか、アンケートにするのか研究にするのかなど。酒井先生にはもう少し検討いただき、次回の本委員会で再度提案いただくことになった。

実施方法については、各施設の倫理委員会を通すかどうかの問題が上がった。このアンケートは本委員会から酒井先生に委託し、酒井先生が徳島大学の倫理委員会を通して調査していただく。結果については本委員会も使用させていただくのはどうかという提案が出た。そのため、このアンケートのwebフォームのお金(約17万円)は委員会より支出することを理事会に提案することになった。

(イ) 富山大学の川口先生よりレベルエラー研究

今釜委員長より川口先生のレベルエラー研究について進捗状況を説明いただいた。アンケートのver.3を川口先生より提出いただいた。今週金曜日までに、委員にはアンケート内容を確認し、意見があれば提出することになった。

また、本研究も(ア)の抗凝固剤内服と硬膜外血腫リスクのアンケート同様、webフォーム作成費用は本委員会より支出することを理事会に提案することになった。川口先生には、この研究についてJSSRの倫理委員会を通していただくになっている。

3. 次回委員会開催日

- ・ 次回は11月25日水曜日の18時からの予定。
- ・ 川口先生と酒井先生も参加いただき、ご意見をいただくこととなった。
- ・ 12月は開催せず、1月開催かもしれません。